

## 平成22年度

### 財団法人丹後地域地場産業振興センター事業計画

#### はじめに

平成21年度は、リーマンショック以来の不況感が一層強くなり、大幅な円高と原油、原材料の高騰を背景に輸出部門において大きなダメージとなり、国内における民需へもおおきな影響を与え、デフレスパイラルに陥る様相を呈してきました。

丹後経済においても雇用状況の悪化など懸念材料が多く、光を見いだせていない状況にあります。

こうした中で、当財団の平成22年度事業の方針は、地域の零細、中小企業をバックアップし、少しでも多くの販売機会、商談機会を提供、獲得することにより、地域経済の下ざさえを行うとともに他地域ブランドに負けない全国流通可能な商品としての問題点の把握と改善による品質向上を指導し、新販路開拓に重点をおいた事業を遂行していく所存であります。

観光面では、地域の観光産業も海水浴、カニを主体とした誘客にかげりが見えており、地域資源を活用した誘客が求められています。

厳しい時代からこそ企業との連携、補完と情報を共有化する必要を強く感じています。

また、平成20年12月から当センターは、公益法人制度改革により「特例民法法人」となっており、平成25年11月末までに「公益財団法人」もしくは「一般財団法人」への移行が必要となっています。

本年度は、センター設立の目的に基づき、ガバナンスの再構築と「公益財団法人」か「一般財団法人」のどちらに移行するかの京都府の指導も仰ぎながら具体的な実施と体制づくりを行って参ります。

## 1 新製品・新技術開発研究事業

○事業費 341千円

○財源 利用者負担金100千円 一般財源241千円

### 【事業の概要】

◇織物開発室、染色開発室の機能を有効利用、活用し、丹後ちりめんを活用した商品開発事業を製造者とともに実施する。

◇地域企業の商品開発、ニーズ調査、販路拡大などの要望を受け、指導、相談を実施する。

#### (1) 地域ものづくり支援事業

企業からの要望を受け、関係機関・団体の協力の下、商品開発、販路開拓の支援事業を実施する。

#### (2) 丹後・但馬・西播の3センター共同商品開発事業（新規 43千円）

(財)中小企業総合研究機構の活性化スタッフ派遣事業を活用し、西播の皮革、丹後のちりめんを素材として但馬の鞆縫製技術により、特色有る新企画鞆を制作する。

#### (3) 染色作品展の開催（298千円）

染色グループ「網野染色研究会 茜」の活動拠点として施設を提供し、染色技術の向上を図っており、成果品の発表展示会を行う。

## 2 需要開拓・拡大事業

- 事業費 33,893千円
- 財源 新事業活動促進支援補助金2,029千円  
地場産業等振興対策事業費補助金1,499千円  
京丹後ブランドチャレンジショップ運営事業補助金6,000千円  
地域特産品販路開拓委託事業費補助金2,285千円  
出展者負担金等1,256千円  
手数料収入等720千円  
京都丹後ブランド産品会負担金386千円  
展示即売収入14,118千円  
展示小間収入720千円  
チャレンジショップ保証金返金382千円  
一般財源4,498千円

### 【事業の概要】

- ◇センター展示即売室において、地域地場製品の紹介に努めるとともに、消費者情報の収集提供により、商品開発・改良、販路開拓支援を実施する。
- ◇丹後ブランド認定事業の実施により、地域製品の掘り起こしを図るとともに、地域内外への販路拡大支援事業を実施する。
- ◇第12回Tango Good Goods見本市を開催し、認定品の地域内流通促進及びPRを実施する。
- ◇商談会出展事業を実施し、地域外への地域産品流通を目指す。
- ◇インターネット及びカタログによる通信販売事業を実施し、地域外へのPRと丹後ファン獲得を目指す。
- ◇丹後ブランドチャレンジショップを引き続き運営し、都市圏での地域PRと丹後ファンの獲得を目指す。
- ◇地域特産品販路開拓事業（ふるさと雇用再生事業）を実施し、地域外への積極的な出展により、地域PRと丹後ファン獲得、地域内企業の新販路開拓を目指す。
- ◇各地において丹後のええもん うまいもん展を開催する。
- ◇CATVとの連携による丹後産品PRを実施する。
- ◇京都丹後ブランド産品会の事業を支援し、地域内企業の販路拡大、商品PRを実施する。
- ◇他団体との連携強化により、実施可能な事業の範囲を広げる。

#### (1) 地場産品の常設展示即売事業（13,159千円）

当センターの重要な機能及び事業の柱の一つである地場産品のPRを目指す常設展示即売事業は、地域産品の総合展示場として「丹後ちりめん」をはじめ地場産品約1700品目に及ぶ製品を展示している。

来館者の注目も高く、観光関連業者からの紹介も年々増加しており、

地域の観光資源としての機能を持ちつつあり、今後も年間を通して丹後を訪れる観光客をはじめ地域内外へも取扱品情報を発信するなど幅広く宣伝・啓発し、販路開拓とともに消費者ニーズの把握による需要拡大に努める。

また、人材育成事業で実施するVMD事業をセンター展示即売室にも導入し、来館者へのアピール力を強化するとともに、VMD提案によるバイヤーへの商品取り引きの動機付けを狙いとする。

(2) 丹後ブランド商品認定事業（1, 157千円）

○ 事業開始以来12年目を迎えるTango Good Goods認定事業を今年度も実施し、製造者の「ものづくり」を奨励・支援し、販路開拓の意欲高揚を図るとともに、丹後ブランド商品のコンセプト確立とそれに基づくブランドイメージの定着化を図り、流通及び需要の拡大・開拓を推進する。

また、産地・表示偽装等が問題となっており、審査基準においても、より一層の厳格化が必要となっており、認定品としてのコンプライアンスはもとより、着色料、保存料等についても再度製造者の意識を高め、Tango Good Goodsとしての質的向上を図る。

○ 認定品へのTango Good Goodsロゴシール貼付指導を推進し、地域ブランド商品として差別化を図る。

(3) 丹後ブランド商品の販売促進と見本市開催（1, 516千円）

第12回目となる丹後ブランド産品見本市を宮津市において開催し、丹後ブランド認定商品を中心とした地場産品の地域内PR及び流通促進を図る。

(4) 商談会の開催及び出展事業（4, 643千円）

地域外での販路の開拓を目指し、各業種に適したトレードショーを選定、設定するとともに、効果的なビジュアルマーチャンダイジングをとおして製造者の商品提案力強化及び新販路の開拓に資する。

(5) 通信販売システム運営事業（780千円）

○ エンドユーザーへの丹後産品のPR、新たな丹後ファン獲得を目指し、近畿地場産センターとの連携によるショッピングモールの運営と国内最大のショッピングモール「楽天市場」へ出展する。

○ 上記ショッピングモールと連動し、歳暮及び中元期の通信販売カタログの作成と配布、両期間以外の通年カタログの配布を行う。

(6) 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業（9, 650千円）

大都市圏での丹後情報の発信、地場産品PRを推進することを目的とし、京都市内に開設したホット丹後を継続運営する。また、丹後観光情報の発信を京丹后市観光協会との連携により実施する。

(7) 地域特産品販路開拓事業（2, 547千円）

地場産品製造者の現状を把握し、販路開拓と地産都消をコンセプトに都市部等における販路を確保するとともに、売れる商品の開発指導を行う。

(8) 丹後のええもん うまいもん展開催事業（441千円）

京都丹後ブランド産品会との共催により、名古屋、大阪等の大都市圏において丹後産品及び地域紹介を目的として、「丹後のええもん うまいもん展」を開催する。

(9) CATVによる地場産品紹介事業（新規）

センターに設置されたCATVスタジオと連携し、地域内外へ地域資源（観光・産品・産業）を紹介する。

(10) 京都丹後ブランド産品会の支援

Tango Good Goods 認定事業者のなかで地域外へも、その販路を開拓する意欲のある事業者で発足した「京都丹後ブランド産品会」の活動を支援し、新商品開発、販路開拓等の事業を実施する。

(11) 他団体との連携事業

- 丹後産品のPR事業のみならず丹後観光を積極的にアピールすることを目的として、丹後広域観光キャンペーン協議会・京丹後市観光協会等との連携強化に資する。
- 丹後地域内地場産品製造業者と他地域の製造業者をマッチングし、スケールメリットによる展示会・広報を展開することを目的として、各市町商工会及び京都府商工会連合会、他地域地場産センターとの連携強化に資する。

### 3 人材育成事業

○事業費 59千円

○財源 一般財源59千円

#### 【事業の概要】

◇和装需要の底辺拡大を目指し、着物着付け教室を開催する。

◇VMD講習会の開催

#### (1) 着物着付け教室

和装に親しみ、自ら着用できる人材の養成を図るため、京丹後市高等職業訓練校と共催で引き続き、着物着付け教室を開催する。

#### (2) VMD講習会（新規 59千円）

商品を販売するためには、効果的なVMD（ビジュアルマーチャンダイジング）が必要で、バイヤーとの商談においても商品VMDは、成約の大きな要素となることから、センター展示即売室においてVMDの専門家により、実地にVMD行う講習会を開催する。また、商談における成約率の向上を目指した商談力養成講座を併せて実施する。

## 4 情報収集提供事業

○事業費 780千円

○財 源 一般財源780千円

### 【事業の概要】

- ◇展示即売室における即売動向分析、提供事業を実施する。
- ◇センターホームページによりセンター情報及び地域企業の情報発信を実施する。
- ◇アミティ丹後出展者会の開催。
- ◇物産展等販売機会の情報収集提供の実施。

#### (1) 展示即売室即売動向情報収集分析提供事業（280千円）

展示即売室における日々の顧客、商品、販売情報の収集に取り組み、販売データを分析、加工、提供し、アミティ情報の発行により各種情報をタイムリーに提供し、業者の経営に寄与するとともに、業者との意思疎通の一助に資する。

#### (2) センターホームページによる地域資源発信事業（61千円）

地域情報、センター情報、産品情報等をホームページにより、発信する。（産品については、通信販売も可能）  
また、地域企業にスポットを当て、企業情報の紹介を新たに実施する。

#### (3) アミティ丹後出展者会

アミティ丹後出展者会を随時開催し、即売室情報を基に商品展示方法、企画展開催などの情報交換、研修、事業を行う。

#### (4) 物産展等の販売機会情報収集提供事業（439千円）

各地域地場産センターや地域内外のイベントなど地域PRに有効な物産展情報を収集し、出展意欲のある企業へ情報提供を実施し地域PRの機会を提供する。

#### (5) 観光情報発信事業

当センターに事務局を置く、京丹後市観光協会と協同で丹後地域の観光を来館者へ提供するとともに、ホームページ、各種物産展等へ共同出展し、丹後の観光情報を発信する。

## 5 会館提供・コミュニティー事業

○事業費 1,033千円

○財 源 受講料収入300千円 会場使用料収入7,620千円

### 【事業の概要】

- ◇センター施設の貸出を通じ、地域企業、団体の会議、研修等の利便向上を図る。
- ◇地域でものづくりに励む、企業、団体、個人へ展示ギャラリーを貸出し、作品展の開催を通じ、ものづくりを奨励し、発表の機会を創出する。併せて、作品展の開催により、人の集う施設としての集客策の一つとする。
- ◇織物開発室、染色開発室の機能を活かし、染色及び手織の見学、体験及び地域産業の展示を通じ、観光客、来館者の獲得を目指す。
- ◇朝市の開催による丹後で生産される農産物等の紹介。
- ◇ちりめん産地としてのPRを目的に、観光客等への産業観光の一環としてちりめんを使用した染色体験事業を通年に渡り実施する。
- ◇他団体・企業との連携による観光客誘致を実施する。
- ◇来館者へのサービス、利便を図るため引き続き喫茶・食堂業務を委託する。

#### (1) 会場提供事業（663千円）

センター2階施設を地域内の企業、団体等の会議、研修会、展示会等に貸し出す。今年度は、目的別の料金体系を検証し、より地域へ貢献できるサービス、利用率の向上などの仕組み作りを模索提案したい。

#### (2) 展示ギャラリー活用事業（40千円）

地域でものづくりに励む、企業、団体、個人等の作品発表の場として、1階展示ギャラリーを提供するとともに、センター及びセンター出展者会による情報発信の場として活用する。

#### (3) たんご朝市の開催（30千円）

たんご朝市は、開設10年を迎え、地域住民・観光客等から好評を得ている。朝市会館建設による毎日開催の要望があるものの、今年度は、引き続き前年同様の開催方法とし、生産者が自身の産物を直接、エンドユーザーに販売する方式で運営することとしたい。また、10周年を記念したイベントを出展者とともに協議開催する。

#### (4) 染色体験事業（300千円）

観光客等が地域資源である丹後ちりめんの理解を深め、ちりめん産業に触れてもらう機会を創出するため、網野染織研究会「茜」の協力を得て染色体験を実施する。



(5) 他団体・企業との連携による観光客誘致

丹後広域観光キャンペーン協議会、各市町観光協会、観光関連業者、体験型事業実施企業等との連携により、春夏秋冬の通年を通じた地域誘客、センター誘客を推進する。

(6) 喫茶・食堂委託

会場使用や観光客へのサービス、利便性の向上を念頭に引き続き、喫茶・食堂業務を有限会社網野観光開発へ委託し、地元食材等を使用したメニューの開発等により、来館者から親しまれるサービスを提供する。

## 6 管理運営事業

- 事業費 48,801千円
- 財源 施設改修事業補助金11,162千円  
京都府運営費補助金5,677千円  
京丹後市運営費補助金31,140千円  
一般財源822千円

### 【事業の概要】

- ◇開館後24年を経過し、老朽化した施設、備品の改修、改善を実施する。
- ◇施設利用者に気持ちよく使ってもらえるよう会館維持に努める。
- ◇平成25年11月末までに移行しなければならぬ新公益法人制度改革に対応し、平成23年の移行認定・認可に向けて準備をおこなう。
- ◇理事会・運営委員会の開催
- ◇センターの管理運営・事業実施及び職員の資質向上を目指し、各種会議、研修会等へ積極的に参加する。

#### (1) 施設改修事業（新規 11,162千円）

当センターは、開館後24年を経過し、各施設に老朽化が目立つ。随時改修を行っているが、今年度は大規模修繕として下記2項目の改修を実施する。

##### ○下水道接続改修

平成22年度に運用開始予定の京丹後市下水道に接続する。

##### ○絨毯張り替え

2階貸し出し施設の絨毯が擦り切れ、所々に穴が空いている。利用者の利便向上を目的に、絨毯部分の張り替えを行う。

#### (2) 施設管理事業（37,252千円）

老朽化が目立つ施設であるが、館内の清掃、点検、保全に努め、会館利用者に気持ちよく使用してもらえるよう維持管理を行う。

#### (3) 新公益法人制度改革対策事業（新規 299千円）

平成25年11月末までに、公益財団法人若しくは一般財団法人への移行が義務づけられており、平成23年度の移行申請に向けた検討、準備を行う。

##### ○4月 第2回対策委員会の開催

##### ○5月 理事会において最初の評議員選考委員の設置を提案

#### (4) 理事会・運営委員会の開催（87千円）

センターの適正・円滑な運営を図るため、理事会・運営委員会を開催する。

開催予定日	主な審議内容
平成22年5月	平成21年度事業報告・決算報告 最初の評議員選考委員の承認
平成23年3月	平成23年度事業計画案・予算 移行法人の決定

(5) 各種会議、研修会への参加

会議の名称	開催予定日	開催予定場所
全国地場産センター協議会総会	平成22年7月	滋賀・高島センター
同 基本問題研究会	数回	東京・中総研他
近畿経産局管内地場産センター協議会	定例会 6月・3月	近畿経産局
同 事務レベル担当者会議	数回	近畿経産局
丹後キャンペーン協議会	数回	未定
京丹後市観光立市推進会議	数回	未定

その他、防火管理、食品衛生管理、接客講習会など必要に応じ、地域内外の講演会、講習会、研修会等へ積極的に参加する。